

テーマ	DIA 初等部のクリスマス・ページェント ～人権尊重のメッセージを2言語で伝える～
発表内容	クリスマス・ページェント上演の教育目的、 本番までの過程とその内容について。
発表者	宗教科 教諭 石川 眞弓 学級担任；キリスト教・人権教育担当 藤井 元嗣

発表概要

I DIA 初等部のクリスマス・ページェントについて

3年生の「宗教」授業～4月から12月本番を迎えるまで～

①視聴覚教材による事前学習

絵本、紙芝居、DVD を用いて多角的にキリスト降誕物語の内容を伝える。

②ワーク・ブックで内容を復習する

キリスト降誕物語には3種の差別を明確に否定したメッセージがある。

- ・マリア…女性差別。家柄や教養、美しさなどは別の所にあった、「神の子の母」としての選り。
- ・羊飼い…身分差別。3K（汚い、きつい、危険）の職業で蔑まれていた身分の人々だったが、天使は誰よりも真っ先にキリストの誕生を告知知らせた。
- ・東の国の博士たち…外国人（異民族）差別。異民族の異教徒である彼らがユダヤ人の救い主を敬っているのに、ヘロデ王を始め同じユダヤ民族の人々がその誕生に拒絶反応を示した。「キリスト教は民族の枠を超えた宗教である。」というメッセージを伝えている。

③昨年度の上演録画を見る

児童らに「今度は自分たちの番だ。がんばるぞ。」というモチベーションをアップさせる。

④希望の役をアンケート調査

「どんな役も大切、どれが欠けても劇は成り立たない。当たった役には誇りと責任を持って、最後まできちんとやり遂げること。」と伝える。

⑤配役決定

- ・宗教担当者が集計作業。
- ・本人の希望を元に、クラス担任が最終決定する（毎日自分のクラスの児童らを見ていて、誰がこの役により相応しいかを判断することができる。中には長いセリフを覚えるのが苦手な児童もいるので、そのような場合は担任が配慮し、第5希望の範囲内で役を決定する）。

⑥台本作り

セリフの言葉を授業中に皆で吟味し、自分自身の言葉に置き換える（今年度からの試み）。

⑦配役発表・台本配付

夏休み前に配付し、休み中に自分の配役のセリフを音読しておく。

⑧秋学期 練習開始

- ・英語のセリフはネイティブの英語教員が発音をチェック（iPadのロイロノートでやり取り）。
- ・8月～9月 教室でセリフ練習、舞台の動きをシミュレーション（照明役児童は監督役を行い、授業最後にコメントを発表）。
- 10月 舞台練習。授業の指導者は宗教担当者からクラス担任へとバトンタッチする（クラス担任…演技指導、宗教担当者…照明役児童の指導、ネイティブ教員…音響係、照明盤役児童の指導）。
- 11月 大道具・小道具・衣装付きで練習。

⑨その他

- ・保護者のサポート：舞台衣装のカウントや、大道具・小道具の修理・修繕、当日は児童らの着替えを手伝ったり、舞台係として幕間に背景の転換を行ったりする。
- ・担任との連携：週一の宗教の授業だけでは練習時間が足りないため、秋学期の3年生の時間割では宗教、英語、日本語探究科目、英語探究科目などを合体させて、ページェント練習に充てる（この間、週平均で通常よりも5時間は宗教の時間が増え、直前になると10時間は増える計算になる）。
- ・他学年との連携：4年生、5年生が聖歌隊となり、劇中で歌われる讃美歌曲を先導して歌う。
- ・校内課外活動：「DIA有志アンサンブル」は学年縦割りの団体で、クリスマス・ページェントでは劇中で歌われる讃美歌の伴奏を行う。

II 内容紹介（2022年度の本校ページェント動画を部分的に上映）。

III グループ活動

①参加者を3つのグループに分け、動画の内容に因んだプリント課題を解いてもらう。

②各グループの代表者が担当番号の解答を発表する。

